

6-2		主題	24時間、外出時でも安心な緊急カードに関する研究	
3つの緊急カード		副題	急変時！その時に必要なものとは？	
急変時対応				
研究期間	24ヶ月	事業所	軽費老人ホーム 偕楽荘	
発表者：看護師：大上 尚子			アドバイザー：	
共同研究者：ケアワーカー：藤沢 紀子、生活相談員：岡 靖晃				
電話	042-376-1711	メール	oka@rakuyuukai.com	
FAX	042-337-0327	URL	http://www.rakuyuukai.com/	

今回発表の事業所やサービスの紹介	<p>軽費老人ホーム偕楽荘は昭和43年に開設し、平成8年に現在の多摩市山王下に移転しました。同社会福祉法人内に特別養護老人ホーム、在宅サービスセンターを有しています。</p> <p>キティーちゃんで有名な多摩センター駅より15分程の高台に建てられ、晴天の時は富士山を眺められる見晴らしの良い立地にあります。</p>
------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 軽費老人ホームは自立型の為、通院、服薬は利用者の自己管理である。そのため、施設側で医療に関する情報を把握することはもともと困難であった。しかし、利用者の高齢化などにより最近では緊急時の対応を求められる事が多くなってきた。 緊急時の対応として個別の情報を記載したカード（緊急カード）を作成していたが、いざ入院、救急搬送という時に情報不足や記載漏れがあり、その度に確認をしていた。 職員配置の問題から、夜間は一人勤務となるため緊急時の対応は職員にとっての不安材料の1つであった。 <p>《課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の緊急カードの内容では利用者の安心を得ることが困難だった。 急変に対応するため24時間、また外出時でも対応が可能なシステムが求められた。
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>急変時に24時間、365日、外出時でも夜間でも不安が少なく対応できるシステムの構築</p> <ol style="list-style-type: none"> 施設保管の緊急カードの再構築 <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応がスムーズに流れる事 医療機関受診時に役立つもの 緊急時に必要な情報が記載されているもの 携帯IDカードの構築 <ul style="list-style-type: none"> 外出時に対応できるもの コパ°外に収まる(随時携帯出来る物) 他人が見ても急変時の対応が可能なもの 本人確認が可能なもの リビング・ウイルカードの確認 <ul style="list-style-type: none"> 本人の尊厳を守れるもの。 保証人の安心につながるもの。 <p>3つのカードが機能することにより、急変時の対応の不安の解消。利用者の安心につなげたい。</p>

《具体的な取り組みの内容》

- 1、既存の緊急カードの見直しを実施。
 - ・救急搬送時に救急隊員、救急医から質問されることの確認を行なった。
 - ・質問されることは、ほぼ毎回一定の内容で多くの情報は緊急時に必要が無い事を知った。
- 2、医療に関する最新情報の確認
 - ・看護師が中心となり、既往歴、現病歴、通院機関、通院内容、受診科目、担当DR、内服薬の再確認をするにあたり個別に申告用紙を提出してもらった。
 - ・全利用者の保証人と面談を行ない、必要性を説明し、保証人からも申告のサポートをお願いした。
 - ・年に2回、看護師が個別に面談を行ない都度情報の更新を行なった。
- 3、携帯 ID カードの検討・作成
 - ・外出時にも携帯できるような緊急カード、つまり、お財布に入れるサイズの携帯カードを作成。
 - ・カードをラミネートでコーティングし、存在感をだした。
 - ・外出時の安心のため、本人確認が出来るよう顔写真を載せた。
 - ・情報内容は見直しを行った緊急カードと同等程度の物を作成した。
- 4、リビング・ウィルカード作成について
 - ・必要性について本人・保証人と話し合った

《取り組みの結果と評価》

《施設保管の緊急カード》

- ・救急搬送時救急隊員の質問には提示する形をとることにより時間のロスがなくなった。
- ・余計な情報がないため、看護師以外の職員が対応しても、スムーズに対応が可能となった。
- ・緊急カードに無い情報は緊急対応後、看護師が必要に応じて情報提供を行なう必要が生じた。

《携帯 ID カード》

- ・財布等に携帯できるようなカードタイプなので、外出時でも安心できると利用者から評価をもらった。
- ・外出先で身分証明を求められた時など、身分証明としての利用もできた。

《リビング・ウィルカード》

- ・利用者から軽費老人ホームのため、まだ早いという意見が多く、理解いただくまでには時間がかかった。
- ・事前に本人の意見・意志を確認することにより、本人の尊厳を守ることができ、また、保証人からも安心であるとの評価を頂いた。

《まとめ》

- ・3つのカードを構築しシステムとして機能することにより、施設理念である、安全と安心につながった。

《提案と発信》

・医療設備の少ない高齢者施設にとって、施設で行える緊急時対応には限界があり、緊急時の対応は常に問題提起とされるものである。一刻を争う緊急時に素早く対応するため、利用者の必要な情報を集約し、施設内又は、外出時でも情報を適時提供できるシステムとして、今回の3つのカードを提案します。

【メモ欄】